

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~3日	7月 ~10日	7月 ~17日	7月 ~24日	7月 ~31日	8月 ~7日	8月 ~14日	8月 ~21日	8月 ~28日	9月 ~4日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	36	30	21	7	5	7	8	16	15 (16)	10
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	4	9	5	7	5	12	10	12	18 (19)	14
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4	2	3	0	0	1	1	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	3	2	1	4	6	4	0	3	4 (5)	5
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	5	7	4	3	7	7	3	6	3	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	3	6	4	1	3	5	3	6	3 (4)	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	1	0	1	1	1	0	0	1	0	2
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	2	1	5	1	0	1
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
*その他の2件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第35週(8月29日~9月4日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6			3		2	1	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1					1		
四類	9	つつが虫病	1					1		
		日本紅斑熱	5					3	1	1
		レジオネラ症	3	2		1				
五類	16	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1						1	
		急性脳炎	1					1		
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1		
		梅毒	13		2			11		
新型コロナウイルス感染症	25,654	新型コロナウイルス感染症	25,654	2,987	1,870	2,297	540	11,721	2,213	4,026

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北 部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第35週に11,721件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向ですが、依然として高い感染レベルが続いています。マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気などの基本的な感染予防対策に加えて、体調不良時の外出自粛など一人一人が対策を徹底することが大切です。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



2 腸管出血性大腸菌感染症

今年の累計は21件(昨年同時期15件)となり、多い状況が続いています。感染予防のため、肉類は十分に加熱し、生で食べる野菜や調理器具はよく洗いましょう。また、調理や食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で十分に手を洗いましょう。

3 日本紅斑熱

今年の累計は10件となりました。これまでの年間最多報告数6件(2021年)を既に上回っており、多い状況です。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着るなど、マダニに咬まれないように注意しましょう。また、治療が遅れると重症化することもあるので、マダニに咬まれた後に発熱等がある場合は、直ちに医療機関を受診しましょう。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.16		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.07	
小児科	咽頭結膜熱	5	0.22	0.40		眼科	RSウイルス感染症	43	1.87	2.07	⇒
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.17	1.05			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	45	1.96	3.42	⇒	基幹	流行性角結膜炎	2	0.25	0.78	
	水痘	1	0.04	0.15			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	35	1.52	1.20	⇒		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.18			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.09	
	突発性発しん	6	0.26	0.42			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	17	0.74	0.76	⇒		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	75	20歳代、90歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	21	40歳代・O157
4	つつが虫病	1	1	70歳代
4	日本紅斑熱	3	10	10歳代・1人、70歳代・2人
5	急性脳炎	1	7	10歳未満
5	梅毒	11	224	20歳代・3人、30歳代・4人、40歳代・3人、50歳代・1人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	12	80歳代